



# エコ・ファーストの約束（更新書）

—環境先進企業としての地球環境保全の取り組み—

環境大臣 西村 明宏 殿

令和4年10月31日

ブラザー工業株式会社  
代表取締役社長

佐々木 一郎

ブラザーグループは、従業員の一人ひとりが業務および日常生活において地球環境への配慮に高い意識を持つことで持続可能な社会の実現を目指し、企業の社会的責任を果たしてまいります。

## 2050年ビジョン 脱炭素社会への貢献

あらゆる事業活動のカーボンニュートラルとバリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出最小化を目指し、脱炭素社会の形成に貢献している。

- 2030年度中期目標 [スコープ1・2] 2015年度比で65%削減する
- 2030年度中期目標 [スコープ3] C1・C11・C12 2015年度比で30%削減する

2022年4月に「Science Based Targets initiative」による「1.5°C目標」の認定を取得しました。

ブラザーグループはTCFDの提言に基づき、情報開示の充足に努めるとともに、脱炭素社会の形成に貢献するため、より一層の気候変動対策を推進していきます。

## 2050年ビジョン 資源循環の最大化

資源循環の最大化により、資源の持続可能な利用と廃棄物による環境負荷の最小化を目指す。

- 2030年度中期目標 循環経済型ビジネスの拡大と資源の再生利用により、製品<sup>\*1</sup>に投入する新規資源率を65%以下<sup>\*2</sup>とする
- 2030年度中期目標 グループ生産拠点において継続的に水資源の効率的な利用と適正処理による排水に努めている
- 2050年ビジョン達成に向けて「ブラザーエコポイント活動<sup>\*3</sup>」をグローバルに推進し、従業員の環境意識を向上させるとともに、従業員が参加できる環境保全活動を広げていく

\*1: 包装材を含む

\*2: 対象は、プリンティング・アンド・ソリューションズ事業、パーソナル・アンド・ホーム事業、マシナリー事業

\*3: ブラザー工業では2005年に愛知県で開催された「愛・地球博」における「EXPO エコマネー」の考えを社内を導入することで、従業員の環境意識の向上を促進する「ブラザーエコポイント活動」を2008年4月にスタートしました。この活動は、従業員やその家族による環境配慮行動などにポイントを付与し、貯まったポイントに応じてブラザーグループがさまざまな環境貢献活動を実施するものです。また消耗品の回収量に応じてポイントを付与しています。ブラザーグループ従業員2/3以上の参加を維持します

## 2050年ビジョン 生態系への貢献

事業活動が生態系へ与える環境負荷を最小化し、環境負荷を上回る修復・保全活動をしている。

- 2030年度中期目標 事業活動が生態系に与える環境負荷および、その修復・保全活動の影響を評価し、生態系への環境負荷の回避、低減に取り組んでいる
  - 2030年度中期目標 グループ全体の生産・販売拠点において、各地域の状況に応じた自主的な生態系の修復・保全活動をしている
- ブラザーグループでは、事業全体が生態系へ与える環境負荷の定量化を進め、効果的な環境負荷低減活動とともに生態系保全活動を展開し、2030年度中期目標、2050年の環境ビジョンの実現を目指していきます。

## 製品・サービス / 環境コミュニケーション

- 国際エネルギースタープログラム(米国・日本・カナダ・台湾・スイス)や節能規格(中国)など各種省エネ基準に、該当製品をすべて適合させ各々のカテゴリにおいて業界トップレベルの省エネ性能を維持する
- ブラザー SDGs STORY(クリック募金<sup>\*1</sup>・動植物園とSDGs<sup>\*2</sup>)などを通して、お客様にも環境保全活動の大切さを広めていく

\*1: ブラザーグループ10拠点以上における森林再生や砂漠化防止などの取り組み促進と、お客様による支援の輪を広げる取り組み

\*2: 地球のいのちと環境を守る取り組みを応援する取り組み

ブラザー工業株式会社は上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省へ報告するとともに、サステナビリティ Web サイトなどによる定期的な公表を行ってまいります。